



## 2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年2月4日

上場会社名 株式会社キューブシステム 上場取引所 東  
コード番号 2335 URL <https://www.cubesystem.co.jp/>  
代表者 (役職名) 代表取締役 社長執行役員 (氏名) 中西 雅洋  
問合せ先責任者 (役職名) 上席執行役員社長室長 (氏名) 北垣 浩史 TEL 03-5487-6030  
配当支払開始予定日 —  
決算補足説明資料作成の有無：有  
決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2026年3月期第3四半期の連結業績（2025年4月1日～2025年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第3四半期	13,759	0.8	1,136	27.7	1,159	29.7	1,077	19.0
2025年3月期第3四半期	13,652	0.6	890	△23.4	894	△23.5	904	19.3

(注) 包括利益 2026年3月期第3四半期 820百万円 (△9.4%) 2025年3月期第3四半期 905百万円 (21.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第3四半期	71.25	—
2025年3月期第3四半期	60.13	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2026年3月期第3四半期	14,647	11,173	76.3	736.20
2025年3月期	14,366	10,874	75.7	722.27

(参考) 自己資本 2026年3月期第3四半期 11,173百万円 2025年3月期 10,874百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	20.00	—	20.00	40.00
2026年3月期	—	20.00	—		
2026年3月期（予想）				22.00	42.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	19,500	6.3	1,750	26.7	1,760	26.3	1,220	△3.3	81.03

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年3月期3Q	15,750,000株	2025年3月期	15,750,000株
② 期末自己株式数	2026年3月期3Q	572,934株	2025年3月期	693,536株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年3月期3Q	15,117,754株	2025年3月期3Q	15,047,295株

（注）期末発行済株式数には、役員報酬BIP信託口及び株式付与ESOP信託口が保有する当社株式（2026年3月期3Q 570,132株、2025年3月期 690,734株）が含まれております。また、役員報酬BIP信託口及び株式付与ESOP信託口が保有する当社株式を、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております（2026年3月期3Q 629,444株、2025年3月期3Q 699,958株）。

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、（添付資料）3ページ「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（決算補足説明資料の入手方法について）

決算補足説明資料については、TDnet及び当社ウェブサイトのIR情報（<https://www.cubesystem.co.jp/ir/>）で同日開示しております。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当四半期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当四半期の財政状態の概況 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	5
四半期連結損益計算書 .....	5
四半期連結包括利益計算書 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	7
(セグメント情報等の注記) .....	7

## 1. 経営成績等の概況

### （1）当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益の改善に伴う所得の向上やインバウンドの増加に伴う消費拡大、新政権の経済対策への期待感の醸成により、景気は緩やかな回復基調を維持しました。一方で、米国の政策変更を起点とする世界経済の不確実性が高い状態が継続しており、世界的な資源・原材料価格の高騰ならびに物価の上昇等、依然として先行きが不透明な状況となっております。

このような状況下において、情報サービス産業では、顧客のサービスの高付加価値化ならびに人材不足を背景としたDX（ビジネス変革・プロセス変革）需要が継続しており、AI技術を用いた情報化投資やその導入支援が活発化しております。また、レガシーな基幹システムのクラウドへの移行（Lift）、利便性の向上に向けたシステム構築

（Shift）に対するニーズも根強く、事業・業務の活性化に向けたAIサービスの本格的活用やクラウドサービス利用の拡大に伴い、今後もIT投資は拡大する見通しです。さらに、DX化の進展に伴い、システムの性能や信頼性の向上が課題として浮き彫りになり、サイバーセキュリティ対策の需要が一層高まっております。一方で、長期化するIT人材の不足から生じる受注機会の損失や人材獲得競争の激化に起因する人件費の増加により、収益環境が悪化する懸念があります。

当社グループにおきましては、SIビジネスおよびデジタルビジネスにおいて、公共分野やエネルギー分野での受注が拡大する中、リソースの最適化や生産体制の確保、業容拡大に向けた施策を実施してまいりました。また、プライム向け事業での高収益化および退職給付の割引率変更に伴い人件費が減少した結果、当第3四半期連結累計期間における業績は売上高13,759百万円（前年同期比0.8%増）、営業利益は1,136百万円（同27.7%増）、経常利益は1,159百万円（同29.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,077百万円（同19.0%増）となりました。

当四半期において、当社は「Fujitsu Core Partner Forum 2025」にて、富士通株式会社および富士通グループと協働して継続的に顧客へソリューションを提供する優良パートナーとして、Achievement Awardを受賞いたしました。今回の受賞は、パブリック事業において、社会インフラを支える大規模基幹システムの安定稼働とDX推進への貢献が評価されたものです。

また、当期、日本オラクル株式会社の「2025 OCI Top Partner Engineers Program」に当社社員が選出されました。このプログラムは、高度な専門知識と実績を持ち、ビジネスの成長や顧客の成功に貢献しているトップレベルのパートナー企業のエンジニアを表彰するものです。

今後も技術者の育成を継続しながら、高い技術力をもとに革新的なソリューションを提供し、社会や顧客のビジネスに貢献してまいります。

当四半期、Amazon Web Services社サポートチームご協力の下、当社国内グループを対象としたワークショップを開催いたしました。当日は「Kiro CLI」の概要と基本機能の講習の他、高度なエージェント機能である「Kiro CLI」を活用したトラブルシューティングを実践いたしました。今後も新たなAIツールに触れ、知見を得る機会を設けることで、技術力の強化に繋げてまいります。

当社では、社員と経営層のコミュニケーションの場として、「社長と語ろう会」というイベントを実施しております。当期は、当社が重要と考える「仕事の誇り」というテーマに関して、社長と社員が直接意見交換を行いました。経営層と社員をつなぎ、距離感を縮める機会として活用することで、会社と社員がともに成長出来る環境の構築を目指しております。

当社グループでは、中長期経営ビジョン《Vision 2026》の実現に向け、生産体制の拡充に取り組んでおります。当期は新たな開発拠点として「品川イノベーションハブ」を開所いたしました。400席強を備える開発室のほか、コミュニケーションの活性化を考慮した会議室や執務室、個々のリラックスを追求したリフレッシュエリアを設けております。当拠点を新たな起点として、一層の高付加価値およびコストパフォーマンスの高いシステムソリューション・サービスを提供してまいります。

当社では、GPT APIを利用した対話型の業務支援をセキュアな環境で使用可能とする「InCUBEator」アプリを開発し、社内展開しております。チャット形式でAPIからデータを取得する機能や社内規程、ガイドラインの情報を検索する機能、ChatGPT最新モデルの推論機能等を実装しており、AI技術の研究を活用して業務の生産性向上に繋げております。

子会社である北海道キューブシステムは、2025年4月9日に厚生労働省が障害者雇用に関する優良な中小企業を認定する「もにす認定<sup>\*</sup>」を取得しました。障害者雇用の促進および安定に関する取組みの実施状況などが優良と評価されました。当社グループは「ダイバーシティ・マネジメント」の一環として、積極的に障害者雇用を促進することで雇用の安定を図り、社会に貢献し、企業価値向上を目指してまいります。

※もにす認定制度とは、障害者の雇用促進や安定に関する取組みが優良な中小事業主（300人以下）に対して、厚生労働大臣が認定を行う制度です。

## （2）当四半期の財政状態の概況

## （資産）

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は10,190百万円となり、前連結会計年度末に比べ383百万円増加いたしました。これは主に、現金及び預金の増加503百万円、売掛金及び契約資産の減少167百万円によるものです。また、固定資産は4,457百万円となり、前連結会計年度末に比べ102百万円減少いたしました。これは主に、投資有価証券の減少334百万円、有形固定資産の増加248百万円によるものです。

これらの結果、総資産は14,647百万円となり、前連結会計年度末に比べ281百万円増加いたしました。

## （負債）

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は2,363百万円となり、前連結会計年度末に比べ23百万円減少いたしました。これは主に、賞与引当金の減少169百万円、未払消費税（流動負債「その他」に含む。）および未払法人税等の減少116百万円、預り金の増加115百万円、未払費用の増加112百万円によるものです。固定負債は1,110百万円となり、前連結会計年度末に比べ6百万円増加いたしました。これは主に、繰延税金負債の増加100百万円、資産除去債務の増加68百万円、長期未払金の減少129百万円によるものです。

これらの結果、負債合計は3,474百万円となり、前連結会計年度末に比べ17百万円減少いたしました。

## （純資産）

当第3四半期連結会計期間末における純資産は11,173百万円となり、前連結会計年度末に比べ298百万円増加いたしました。これは主に、利益剰余金の増加447百万円、退職給付に係る調整累計額の減少150百万円、自己株式の処分108百万円によるものです。

この結果、自己資本比率は76.3%（前連結会計年度末は75.7%）となりました。

## （3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年3月期の連結業績予想につきましては、2025年5月8日の「2025年3月期 決算短信」で公表いたしました通期業績予想に変更はありません。しかしながら、国内外の政策動向や円安の長期化等による物価高騰が進み、経済への悪化懸念が大きい場合には、業績予想を変更する可能性があります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	6,233	6,736
売掛金及び契約資産	3,338	3,171
有価証券	-	99
仕掛品	1	16
その他	232	166
流動資産合計	9,806	10,190
固定資産		
有形固定資産	240	489
無形固定資産	3	29
投資その他の資産		
投資有価証券	2,170	1,836
退職給付に係る資産	1,367	1,356
その他	777	746
投資その他の資産合計	4,316	3,939
固定資産合計	4,560	4,457
資産合計	14,366	14,647
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	802	785
短期借入金	230	230
未払法人税等	206	152
賞与引当金	465	295
役員賞与引当金	4	7
受注損失引当金	29	50
その他	648	842
流動負債合計	2,387	2,363
固定負債		
株式報酬引当金	284	220
株式給付引当金	35	65
資産除去債務	203	272
その他	580	551
固定負債合計	1,104	1,110
負債合計	3,491	3,474
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,400	1,400
資本剰余金	1,491	1,491
利益剰余金	7,496	7,943
自己株式	△654	△546
株主資本合計	9,733	10,288
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	727	616
為替換算調整勘定	39	43
退職給付に係る調整累計額	374	224
その他の包括利益累計額合計	1,141	884
純資産合計	10,874	11,173
負債純資産合計	14,366	14,647

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上高	13,652	13,759
売上原価	10,768	10,497
売上総利益	2,884	3,261
販売費及び一般管理費	1,994	2,125
営業利益	890	1,136
営業外収益		
受取利息	3	4
受取配当金	11	10
消費税差額	4	7
投資事業組合運用益	-	9
その他	4	3
営業外収益合計	23	34
営業外費用		
支払利息	1	2
為替差損	4	5
投資事業組合運用損	10	-
その他	3	4
営業外費用合計	19	11
経常利益	894	1,159
特別利益		
退職給付制度改定益	359	-
投資有価証券売却益	52	462
受取保険金	-	34
特別利益合計	411	496
特別損失		
過年度退職給付費用	33	-
弔慰金	-	33
固定資産除却損	-	5
特別損失合計	33	38
税金等調整前四半期純利益	1,272	1,617
法人税等	367	540
四半期純利益	904	1,077
親会社株主に帰属する四半期純利益	904	1,077

## （四半期連結包括利益計算書）

（単位：百万円）

	前第3四半期連結累計期間 （自 2024年4月1日 至 2024年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自 2025年4月1日 至 2025年12月31日）
四半期純利益	904	1,077
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	74	△110
為替換算調整勘定	2	4
退職給付に係る調整額	△76	△150
その他の包括利益合計	0	△256
四半期包括利益	905	820
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	905	820



## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	38百万円	78百万円

(セグメント情報等の注記)

当社グループは、システムソリューション・サービス事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。